
第2回 岩手県歯科医師会・岩手医科大学歯学会共催 シンポジウム

同時開催 岩手医科大学歯学会第85回例会

プログラム・抄録集

日 時：平成30年12月1日(土)午後1時より

会 場：岩手県歯科医師会館8020プラザ（5階大ホール）

岩手医科大学歯学会

本例会は日歯生涯研修事業の研修単位が取得出来ます。
当日受付にICカードをご持参下さい。

第2回 岩手県歯科医師会・岩手医科大学歯学会共催シンポジウム 第85回岩手医科大学歯学会例会

日時：平成30年12月1日(土) 午後1時より

会場：岩手県歯科医師会館8020プラザ（5階大ホール）

12：45～ 例会受付開始（兼シンポジウム、懇親会）

13：00～13：05 岩手医科大学歯学会会長挨拶

13：05～13：35 第85回岩手医科大学歯学会例会

一般演題

座長 田中 良一

1. 第七頸椎に横突孔はなぜ存在するのか？

○村上 真彬、大橋 拓朗、関谷 和美、水野 宏美、金森 尚城、鈴木 大紀、
横山 達彦、佐藤 柊果*、佐々木信英**、藤原 尚樹**、藤村 朗**
（歯学部3年、歯学部4年*、解剖学講座機能形態学分野**）

2. 歯の内部吸収を思わせる所見と根尖部エックス線透過像が混在し、腫瘍性病変を疑った1例

○星 勲、宮本 郁也、武田 泰典*、阿部 亮輔、齋藤 大嗣、小原 瑞貴、山田 浩之
（口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座臨床病理学分野*）

3. 口腔がんスクリーニング検査に関する知識と手法

－専門分野と経験年数からの比較検討－

○古城慎太郎、阿部 亮輔、齋藤 大嗣、大橋 祐生、飯島 伸、宮本 郁也、山田 浩之
（口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野）

13：35～14：15

教育講演

座長 大橋 祐生

口腔癌画像診断における問題点 －early stageを中心に－

○泉澤 充（岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 講師）

14：15～14：25

休 憩（会長特別賞投票）

14：30～17：00 第2回 岩手医科大学歯学会・岩手県歯科医師会共催シンポジウム

「岩手県における医科歯科がん連携のこれまでとこれから」

1. 挨拶

一般社団法人 岩手県歯科医師会 会長 佐藤 保

岩手医科大学歯学会 会長 三浦 廣行

2. 講演

座長 前川 洋、佐藤 和朗

- 1) 岩手県歯科医師会における医科歯科連携～これまでの歩み～
○齊藤 英朗（岩手県歯科医師会理事）

- 2) 歯科のない病院と地域歯科医師会の医科歯科連携の取り組み
～岩手県立中部病院とのモデル事業から～
○高橋 綾（岩手県歯科医師会口腔保健センター事業運営委員）

- 3) 新病院におけるがん診療連携の課題と展望
○伊藤 薫樹（岩手医科大学附属病院腫瘍センター長）

- 4) 口腔がんの早期発見を目指して
○山田 浩之（岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野教授）

休憩・会場準備

3. 総合ディスカッション

17:00～17:10

会長特別賞表彰・閉会

17:30～19:00

懇親会（会場：メトロポリタン盛岡、会費：3,000円）

（担当講座：歯科放射線学分野、医療工学分野）

抄 録

一般演題

1. 第七頸椎に横突孔はなぜ存在するのか？

歯学部3年、歯学部4年*、解剖学講座機能形態学分野**

○村上 真彬、大橋 拓朗、関谷 和美、水野 宏美、金森 尚城、鈴木 大紀、
横山 達彦、佐藤 柊果*、佐々木信英**、藤原 尚樹**、藤村 朗**

2017年度岩手医科大学2年生の臨床解剖学実習において椎骨動脈の横突孔侵入位置が個体ごとに、また同一個体でも左右で異なることに気付いたため、2018年度の3年生基礎科学演習の課題として取り上げ、岩手医科大学所蔵のインド人骨(79体)の第七頸椎横突孔の形態を中心に検索を進めた。一方、家畜動物の第七頸椎に横突孔がないことが教科書にも記載されているため、岩手大学および岩手県立博物館のご協力のもと、所蔵動物骨を検索した。動物種はヒトを含めて27種であった。第七頸椎に横突孔を有するものは二足歩行、または頭部の位置が二足歩行に近いものであった。一方、有さないものは、四足動物で脊柱の前方に頭部のあるものであった。この骨学的形態に加えて心臓血管系の発生を加味して四足動物と二足歩行(直立二足歩行)動物における第七頸椎横突孔を考察する。

2. 歯の内部吸収を思わせる所見と根尖部エックス線透過像が混在し、腫瘍性病変を疑った1例

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座臨床病理学分野*

○星 勲、宮本 郁也、武田 泰典*、阿部 亮輔、齋藤 大嗣、小原 瑞貴、山田 浩之

【目的】 歯の内部吸収は、まれなものである。一方、根尖部のエックス線透過像は根尖病巣を示唆する。我々は両者の所見が混在する症例を経験し、診断に苦慮したので報告する。

【症例】 30歳、女性。近在歯科より「6」の精査依頼で当科を紹介され受診した。「6」の歯頸部はCRで充填されており、近心歯冠部では菲薄化したエナメル質から赤色の組織が透けて見えた。歯髄電気診断は陽性であったが、エックス線写真にて遠心根尖部に透過像を認めた。これらの所見より同部の腫瘍性病変を疑い、抜歯と根尖部周囲組織の生検を施行した。病理組織検査の結果、内部吸収と思われた部位は歯頸部う蝕で、遠心根のみが歯髄壊死を起し根尖病巣が成立したと考えられた。抜歯摘出後の経過は良好で、現在特に問題を認めていない。

【考察】 結果的に抜歯となったが、診査と診断の重要性を再認識した症例であった。

3. 口腔がんスクリーニング検査に関する知識と手法

－専門分野と経験年数からの比較検討－

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

○古城慎太郎、阿部 亮輔、齋藤 大嗣、大橋 祐生、飯島 伸、宮本 郁也、山田 浩之

今回、われわれは当院の歯科医師に対して口腔がんスクリーニング検査に関するアンケート調査を行ったので報告する。

【対象と方法】 当院に所属する歯科医師132名（口腔外科を除く）を対象として、口腔がんスクリーニング検査に関するアンケート調査を行った。これらの質問に対する回答を歯科医師の専門分野と経験年数により比較して分析した。

【結果】 110名からアンケートに対する回答が得られ回収率は83%であった。初診時に口腔がんスクリーニング検査を常に実施していると回答したものは43.6%で、経験年数や専門分野間での差異はなかった。若い歯科医師が口腔がんスクリーニング検査の実施を避ける理由の80%以上を知識や技能の不足が占めていた。

【結論】 口腔がんスクリーニング検査の教育と研修を若い歯科医師に対して積極的に行うことが、院内での検査の普及に重要であると考えられた。

教育講演

口腔癌画像診断における問題点 - early stageを中心に -

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 講師

○泉澤 充



口腔癌は、発生頻度は低いものの手術により発音、嚥下などの機能障害や審美障害を伴うことが多い。その口腔癌は、視診や触診が可能な口腔に生じるため比較的容易に発見可能な疾患と言える。しかしながら、初期の口腔癌は粘膜疾患や歯周病などとの鑑別が難しく、医療機関を受診する時には、ある程度進行した状態である場合が多いと考えられる。

一方、口腔癌の画像診断はPET-CTや高解像度CTなどの開発・導入により目覚ましい進歩を遂げているものの、初期の症例においては依然、難渋することが多いのも現実である。

舌や口底癌などの軟組織を主座とする口腔癌は、当然のことながらデンタル写真やパノラマ写真において所見を認めることはほとんど無い。診断には造影CTやMRI、PET-CTなどが主体となる。口腔癌で最も発生頻度が高い舌癌は閉口状態において歯列と重なる部分が多くなる。口腔癌の好発年齢層では、ほとんど金属修復物、補綴物が装着されており、それら金属により生じる障害陰影によって画質が低下し診断が非常に困難になる。そのため、これら口腔癌を発見するには、視診や触診が重要となる。一方で、歯肉癌などの比較的骨吸収を起こし易い口腔癌においては、デンタル写真やパノラマ写真でも所見を呈することが多くなると思われるが、成人において罹患率が高い歯周病との鑑別は、高度骨吸収例を除いて困難と言わざるを得ない。

これらを踏まえ今回の講演では、early stageの症例に焦点を絞り、画像診断における問題点など私見を含めお話する予定である。

【略 歴】

平成4年3月 岩手医科大学歯学部卒
4月 岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座 副手嘱託
平成9年10月 岩手県立中央病院歯科・口腔外科 任用
平成11年2月 岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座 助手任用
平成17年4月 同上 講師昇任
現 職

シンポジウム

1. 岩手県歯科医師会における医科歯科連携～これまでの歩み～

岩手県歯科医師会理事

○齊藤 英朗



岩手県歯科医師会では、県下13地区歯科医師会における病院及び医療関係者、多職種との医療連携事業を推進している。

モデル事業として平成21年釜石歯科医師会と県立釜石病院とのNST連携の支援から始まり、翌平成22年は盛岡歯科医師会と盛岡赤十字病院との連携、奥州市歯科医師会と奥州地区ケアマネジャーとの連携、平成23年からはFAXによる歯科往診依頼システムを開始、県立中部病院と北上歯科医師会とのがん医科歯科連携を支援してきた。平成24年度からは、県内のがん診療医科歯科連携推進のために、がん診療医科歯科連携協議会運営委員会・連携協議会、DVD講習会、各地区への講師派遣を開始した。平成25年度からは、県立久慈病院と久慈歯科医師会のがん診療医科歯科連携支援、ガイドラインの発行や連携調査、ニュースレターの発行を開始、平成26年度からは、県立宮古病院と宮古歯科医師会のがん診療医科歯科連携を支援してきた。また平成26年度には訪問歯科診療の普及状況についての県下13地区歯科医師会にアンケート調査を実施した。

本日はこれらの活動の県下への広がり、及び進捗状況についてご報告申し上げます。

【略 歴】

平成8年3月 岩手医科大学歯学部歯学科卒業
平成8年4月 岩手医科大学歯学部歯学科大学院 口腔解剖学第二講座入学
平成12年3月 上記大学院卒業歯学博士号取得
4月 岩手医科大学口腔外科学第一講座入局
平成15年3月 岩手医科大学口腔外科学第一講座退局
4月 秋田市 パール歯科クリニック勤務
平成19年3月 パール歯科クリニック退職
4月 秋田市 とおる歯科医院勤務
12月 とおる歯科医院退職
平成20年3月21日 盛岡市肴町にて、ひであき歯科開院
現在に至る

(一社) 岩手県歯科医師会

平成21年4月～ 地域歯科保健委員会常任委員
平成25年7月～ 口腔保健センター事業運営委員会常任委員
平成27年7月～ 理事、(地域歯科保健委員会・口腔保健センター事業運営委員会担当)

(一社) 盛岡市歯科医師会

平成20年10月 会員活動委員会常任委員
平成21年4月 学術医療管理委員会常任委員
平成23年4月 会員活動委員会常任委員
平成25年7月～ 理事、(医療連携委員会担当)

2. 歯科のない病院と地域歯科医師会の医科歯科連携の取り組み ～岩手県立中部病院とのモデル事業から～

岩手県歯科医師会口腔保健センター事業運営委員

○高橋 綾



岩手県立中部病院は、岩手県中部地域にある病床数434床、平均在院日数10.5日の急性期病院で、25科ある診療科の中には歯科がないため、平成21年の開院当初から北上歯科医師会と、平成26年度からは花巻市歯科医師会の協力も得て、2つの地域歯科医師会と連携しています。

岩手県立中部病院と地域歯科医師会の医科歯科連携は、病棟におけるNST回診から始まり、血液内科や緩和ケア病棟の歯科回診のほか、外来では、がん患者や周産期の医科歯科連携など、多岐に渡ります。その中でも平成23年度から開始されたがん医科歯科連携は、歯科のない病院と地域歯科医師会の連携モデル事業として、岩手県内の先進的な事例となっています。

岩手県立中部病院から地域の歯科医院へ紹介されたがん患者は、平成27年度に91人、平成28年度に252人、平成29年度に254人と紹介人数を維持し続けており、歯科のない病院としては、岩手県内で最も多く紹介しています。平成27年からはがん以外の手術患者の紹介も開始され、平成27年度に132人、平成28年度に186人、平成29年度に340人と、こちらもがん患者以上に紹介が増加しています。

これらの連携実績には、看護師やクラーク、地域連携室など多職種の協力が影響していますが、その中でも歯科のない病院に歯科衛生士を配属し、病院と地域の歯科医院を繋げる役割を果たしたことが最も影響したといえます。

この岩手県立中部病院と地域歯科医師会の医科歯科連携の取り組みから、歯科のない病院におけるがん医科歯科連携の現状と今後の展開についてお話ししていきたいと思います。

【略 歴】

群馬県前橋市出身

平成14年3月 岩手医科大学歯学部卒業

平成15年3月 岩手医科大学歯学部 臨床研修修了

4月 岩手医科大学歯学部第2口腔外科入局

平成18年3月 岩手医科大学歯学部第2口腔外科退局

4月 北上市おだしま歯科医院勤務

平成19年7月 北上市村崎野にあや歯科医院開業

平成23年4月～ 岩手県歯科医師会、口腔保健センター事業運営委員就任

平成27年7月～ 北上歯科医師会理事就任

3. 新病院におけるがん診療連携の課題と展望

岩手医科大学附属病院腫瘍センター センター長

○伊藤 薫樹



がんは、現在日本人の死因の第一位となっています。がんの治療成績は基礎および臨床研究の進歩により向上していますが、安全かつ効果的な治療のみならず、苦痛を限りなく緩和し、患者のQOLを良好に維持することが求められています。そのためには、様々な職種の医療者が密接に連携して診療を行うチーム医療が必要不可欠です。

岩手医科大学附属病院腫瘍センターは、がん診療を円滑に進めることを目的に平成19年7月に設置され、「患者中心のがん医療」および「優しいがん医療」の実践を使命とし、診療科横断的な部門の設置のみならず、チーム医療の推進に努めて参りました。

当院では以前より主に外科領域や血液がんに対する移植医療を中心に歯科医療従事者による口腔ケアや歯科治療が行われてきました。2006年のがん対策基本法が制定され、2013年の第2期がん対策推進基本計画の策定以降、チーム医療の推進の一環として医科歯科連携による口腔ケアの推進が取り組むべき施策として明記されています。腫瘍センターではその重要性を踏まえ、今年度から歯科医師にもメンバーに加わっていただき、院内での医科歯科連携機能のさらなる向上を図っております。連携件数は年々増加傾向にあり、がん治療前・中・後の口腔ケア・歯科治療・セルフケア指導、骨修飾薬投与前の評価、顎骨壊死への対応などを行っていただいております。また院内での医科歯科連携の現状と課題について啓発も行ってまいります。一方で、紹介数の少ない診療科の存在や口腔ケアが必要不可欠な化学療法患者の連携不足などの課題も見えてきました。これらの課題を解決しつつ、矢巾移転後には効率的かつ優しいがん医療を目指した医科歯科連携の仕組みを構築する必要があります。

本講演では、院内の医科歯科連携の現状と課題をもとに、腫瘍センターの視点から、矢巾移転後の医科歯科連携のあり方や展望について述べたいと思います。

【略歴】

平成3年3月 岩手医科大学医学部 卒業
6月 岩手医科大学医学部第三内科学講座入局
平成15年11月 岩手医科大学医学部血液内科 助手
平成16年10月 米国インディアナ大学客員研究員
平成20年4月 岩手医科大学医学部血液・腫瘍内科分野 講師
平成22年4月 同 内科学講座血液腫瘍内科分野 准教授
平成27年1月 同 腫瘍内科学科 教授
平成28年4月 同 附属病院腫瘍センター センター長
平成29年4月 同 臨床腫瘍学講座 教授

【専門分野】 血液腫瘍学、臨床腫瘍学

【主な所属学会】

日本内科学会（認定内科医・指導医・評議員）
日本血液学会（血液専門医・指導医・評議員）
日本臨床腫瘍学会（がん薬物療法専門医・指導医・協議員）
米国血液学会会員，米国臨床腫瘍学会会員

4. 口腔がんの早期発見を目指して

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 教授

○山田 浩之



近年口腔がんの罹患率や死亡率は増加傾向にあり、歯科医療の現場では早期発見のための意識改革が求められている。他部位のがん検診にくらべ、口腔がんのスクリーニング検査に対する関心は低く、一般に広く周知されているとは言い難い。われわれは関係機関と共通理解を図り、協働して口腔がんの早期発見のために実りある活動を展開していきたいと考えている。

1. 口腔がん検診

岩手県内の一部の地域では集団検診が行われてきた。大槌町では2011年から口腔粘膜疾患のコホート研究として年に1回の検診を継続している。また、花巻市においても2016年から歯科保健大会に伴う口腔がん検診が行われている。

より広域での実施が望まれる。

2. 岩手県歯科医師会との連携

岩手県歯科医師会会員が日常の臨床の中で個別検診を実施する際、チェックポイントを明示したマニュアルを作成し、協力を仰いだ。これにより、当院への円滑な紹介システムが構築されている。

3. 院内における診療体制

口腔がんの早期発見には、口腔内全体を診察することが有効だが、院内でアンケート調査を行ったところ、初診時に口腔がんスクリーニング検査を実施しているのは43.6%であった。これを受けて2018年から臨床研修歯科医のオリエンテーションに「口腔がんスクリーニング検査の重要性」という講義を新設した。院内での検査の普及、歯科医師の意識、スキルの向上に繋がっていくものと考えている。

4. 一般社会への啓発

歯科を受診する患者のみならず、自治体や企業による保健事業等を通して口腔がんに対する関心を喚起し、機会をとらえて一般社会に広くセルフチェック方法を紹介したい。杉山芳樹名誉教授が考案された簡便な検査法「あーかんべー検査」は有効な方法の一例である。

これらの中で、歯科医による日常の診療での個別検診は、口腔がん早期発見への最短コースに繋がると思われる。岩手県歯科医師会との連携を強化し、具体的手段として個別検診の受診率向上を図っていきたい。

【略 歴】

平成3年3月 東北大学歯学部卒業
6月 国立水戸病院歯科口腔外科勤務（研修医）
平成5年4月 鶴見大学歯学部附属病院 診療科助手
平成6年5月 鶴見大学歯学部 助手（口腔外科学第1講座）
平成17年10月 鶴見大学歯学部 助手（口腔病理学講座）
平成21年4月 鶴見大学歯学部 講師（口腔外科学第1講座）
平成27年12月 岩手医科大学歯学部 准教授（口腔顎顔面再建学講座）
平成28年4月 現職